

研究テーマ

「病院・施設におけるリハビリテーションに関する研究」

ーリハビリテーションマネジメントとシステム開発およびアプローチー

研究室の紹介

当研究室では、医療保険で発展してきたリハビリテーション、主に理学療法について、医療保険に加え介護保険下においてもどのように展開したらいいかを学びます。したがって、地域展開から病院・施設運営の部分まで、ミクロの部分からマクロの部分までを幅広く、その展開型について学びを深めます。

主な研究テーマ

- 介護保険下でのリハビリテーションに関する研究
- リハビリテーションの視点から見た介護予防に関する研究
- 地域で簡便に運動機能計測ができるシステム開発

主な担当講義科目

- 理学療法地域展開科学特論・演習
- 保健・医療・福祉学研究特論
- 保健・医療・福祉政策システム領域特別講義Ⅰ・Ⅱ
- 保健・医療・福祉政策システム領域特別演習

研究紹介

当研究室では、現在博士前期課程1年生が2名在籍し、地域で展開するリハビリテーションに資する研究を行っています。特に高齢障がい者が要介護状態に陥る過程には意図しない衰弱、筋力の低下、活動性の低下、認知機能の低下、精神活動の低下など健康障害を起こしやすい脆弱な状態（中段階的な段階）を経ることが多く、これらの状態を日本老年医学会は「フレイル」として提唱しています。このフレイルに、理学療法の影響する因子、および生活空間での活動状況について調査し、理学療法をどのように展開したらいいのか、いわゆる介護予防を検証する研究をしています。

さらに、現在研究を進めているのは、簡便にFunctional Reach Test (FRT) を計測する方法の検討です。このFRTは、立位で前方へリーチできる最大距離を測定することで、転倒リスクやバランス能力を評価します。このFRTの評価は、リハビリの専門家が使用することがほとんどですが最近では介護現場の簡易評価としても使用されています。しかし、これを評価するには、方眼用紙を貼り付けた壁の横で計測する方法、フレームを組み立てた機器によって測定する方法などがあり、決して簡便な評価方法とは言えないため、誰もが簡単にできる評価方法を開発しています。

さらに、高齢障がい者の生活空間、活動量、生活の仕方などを調査し、高齢障がい者の健康予防・介護予防に資するアプローチは何かを探ることをこれからの研究に組み込む予定です。

以上、主として介護保険下で展開するリハビリテーション、および理学療法を視野に入れた研究を中心にしています。したがって、介護保険施設、通所リハビリテーション、在宅訪問などの現場がフィールドのなることが多いです。さらに、一般高齢者に対しての介護予防についても、これから展開して行こうと考えています。これらは、広くリハビリテーションシステムについてであり、どのようにリハビリテーションおよび理学療法を展開しようということが、研究の根底にあります。地域貢献に資する研究をしていきます。

大学院進学を希望する方へ一言

当研究室では、介護保険におけるリハビリテーションシステムに関連する研究を幅広く行っています。特に、介護保険下でリハビリテーションを展開している人、あるいは、これからそれを行っていかようと思っている人、さらには、現在は病院に勤務しているが、将来そういう仕事を視野に入れたいと考え、そういう勉強をしようとしている人にお勧めいたします。